

プログラム	エビデンスとプラクティスの両立 3
テーマ	<p>拡げるな薬剤耐性菌！ 環境整備で患者を守ろう！！</p> <p>～清潔な療養環境を提供するためにICNがやるべきこと～</p>
セッション概要	<p>昨今、薬剤耐性菌の伝播経路として、シンクやトイレといった水回りや環境表面からの直接的・間接的伝播が問題となっており、改めて医療施設における環境整備の重要性がクローズアップされている。耐性菌検出患者の周辺環境は高頻度に患者由来の耐性菌で汚染されていることは周知のとおりであろう。しかし、清掃作業は外部委託されている場合が多く、看護師の人員不足や業務負担軽減のため日常的な患者環境整備も看護補助者に委ねている施設も多いのではないだろうか。</p> <p>たとえ看護師が環境整備を行っている施設であっても、例えば高頻度接触部位を全スタッフが同じ認識で判断し、同じ手順で清掃が行えているのか？さらには何らかの手段で環境の清浄化を確認・評価しているのか？実は環境整備に関する疑問は少なくないと思われる。自施設の環境整備の実情をアウトブレイクが起こって初めて認識した ICN もいるのではないだろうか。こうした、個々の知識やスキルのレベルに差がある人々が、同じく標準予防策を遵守しつつ、耐性菌伝播防止の観点から適切な療養環境整備を実践できるようにするために、ICN ができること、やらなければいけないことを、薬剤耐性菌のアウトブレイクを経験したご施設の ICN にその経験をとおしてご提案頂ければ、今後の参考にできると考える。また、近年環境清掃の分野ではウイルスもターゲットとした様々な成分の除菌・洗浄剤が市販され、さらに病室除染の新しいアプローチとして環境表面の消毒を行う紫外線や過酸化水素蒸気を用いた器機等も国内で導入され始めている。</p> <p>こうした環境整備の新たな動きも紹介できればと考えている。医療機関は患者や来院者に清潔で安全な療養環境を提供する義務がある。清潔な療養環境を提供するために ICN としてやるべきことをディスカッションできる機会としたい。</p>